

横浜市インフルエンザ流行情報 16 号

横浜市衛生研究所 / 横浜市健康福祉局健康安全課

《トピックス》

- 患者数は減少していますが、引き続き警報発令中です。
- B 型の報告数が A 型の報告数を上回りました。

【概況】

2017 年第 10 週(2017 年 3 月 6 日～12 日)の定点^{※1}あたりの患者報告数は、横浜市全体で **10.90** と、第 9 週の 13.33 からやや減少しましたが、警報は解除されていませんのでご注意ください。

学級閉鎖等の施設数は第 9 週まで減少傾向でしたが、第 10 週で増加に転じました。医療機関、高齢者施設内での集団発生の報告は減少しましたが、引き続き、外部からの持込み防止対策や職員及び入所者等の健康観察に注意が必要です。

入院患者の報告は、第 10 週で減少しましたが、今後とも重症化については注意が必要です。

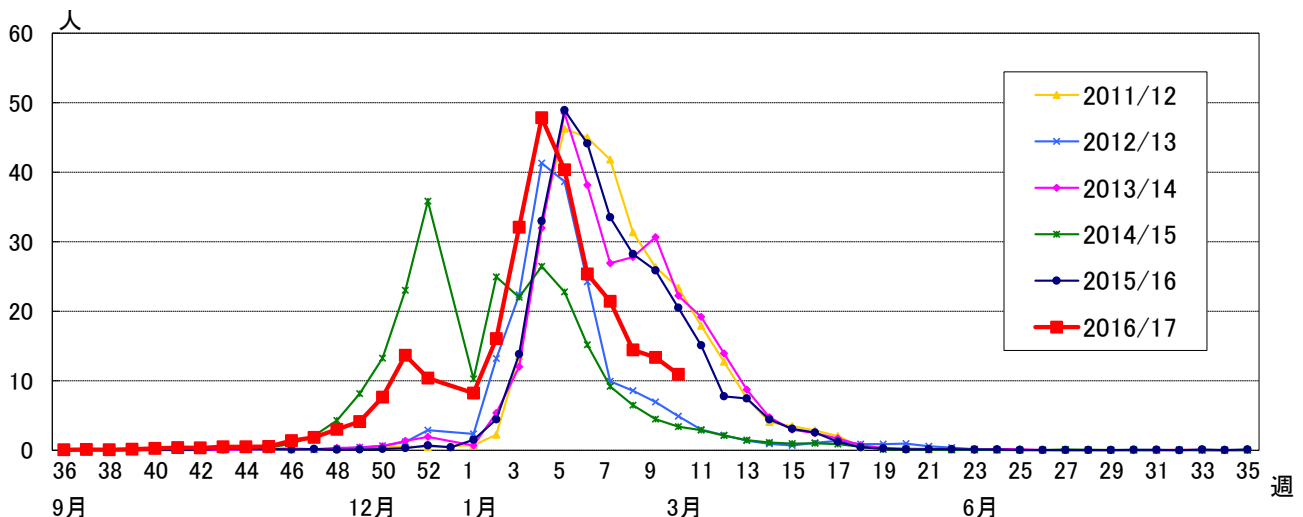
第 6 週以降、迅速診断キットの結果は B 型の報告件数および割合が増加しており、第 10 週は A 型 45.5%、**B 型 54.3%**、A・B 型ともに陽性 0.2%と、**B 型の方が多くなっています**。市内のウイルス検出状況では、ほとんどが AH3 型(A 香港型)でしたが、第 10 週からは B 型が多く検出されています。

引き続き、予防や早期受診などの対策^{※2}を心がけましょう。

※1 定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内 153 か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

※2 [市民向けインフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

1 市内流行状況:市全体の定点あたりの患者報告数は第 10 週で 10.90 となり、前週の 13.33 からやや減少しましたが、警報解除基準(10.00)を下回っていません。第 4 週の 47.83 をピークとして漸減している状況ですが、依然として報告は続いており、注意が必要です。



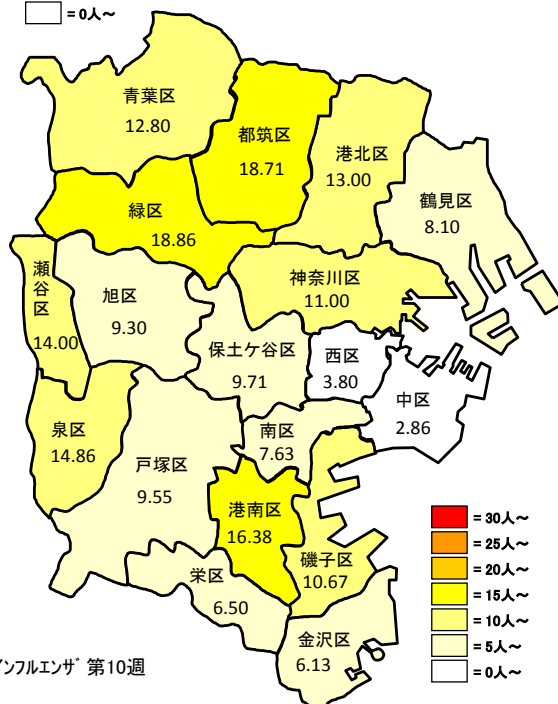
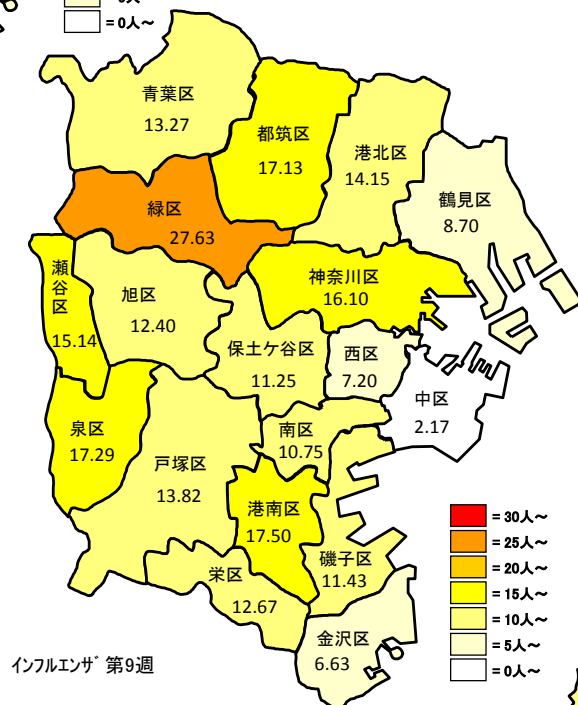
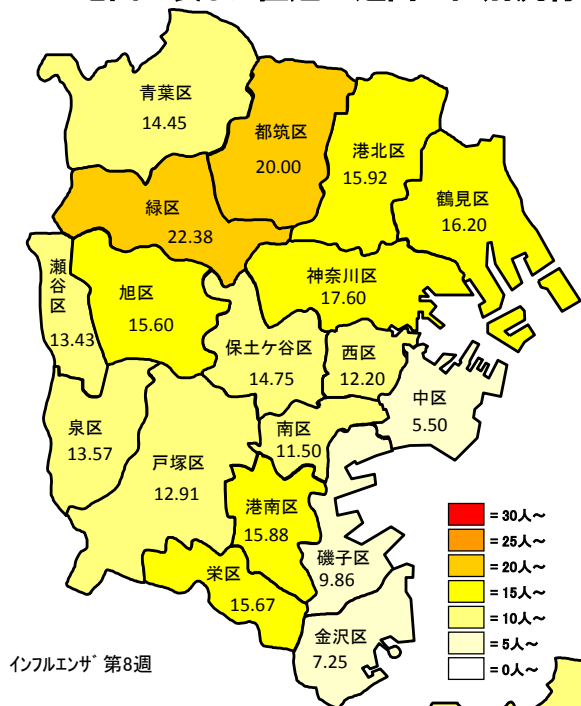
2 地図で表した直近 3 週間の区別流行状況(塗り分けの数字は定点あたり報告数)

2017 年第 3 週(1 月 16 日～22 日)に市全体で警報発令基準値(30.00)を上回りました。

第 3 週は 13 区で、第 4 週は 17 区で警報発令基準値を上回りましたが、これをピークとして各区とも減少傾向となっています。

警報は市全体で解除基準値(10.00)を下回るまで続きます。直近の 5 年間では、概ね 2 月中旬から 3 月下旬までの期間に解除されており、昨シーズンは第 4 週(1 月 25 日～31 日)で警報発令、第 12 週(3 月 21 日～27 日)で解除されています。

流行警報の発令は継続しており、ワクチンの接種の有無に関わらず、引き続き、手洗い等の予防策の徹底が重要です。



【参考リンク】

近隣自治体の流行状況

○ [神奈川県](#)

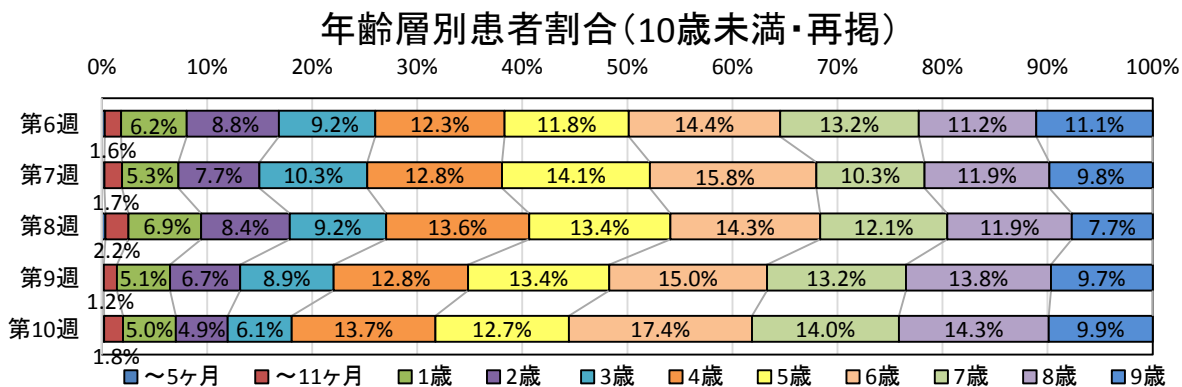
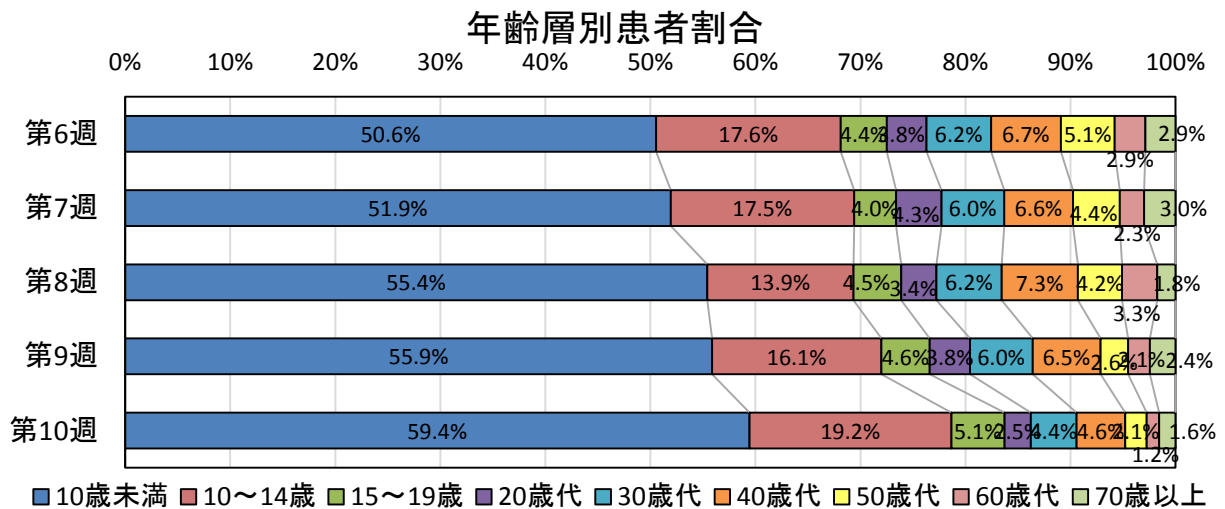
○ [川崎市](#)

○ [東京都](#)

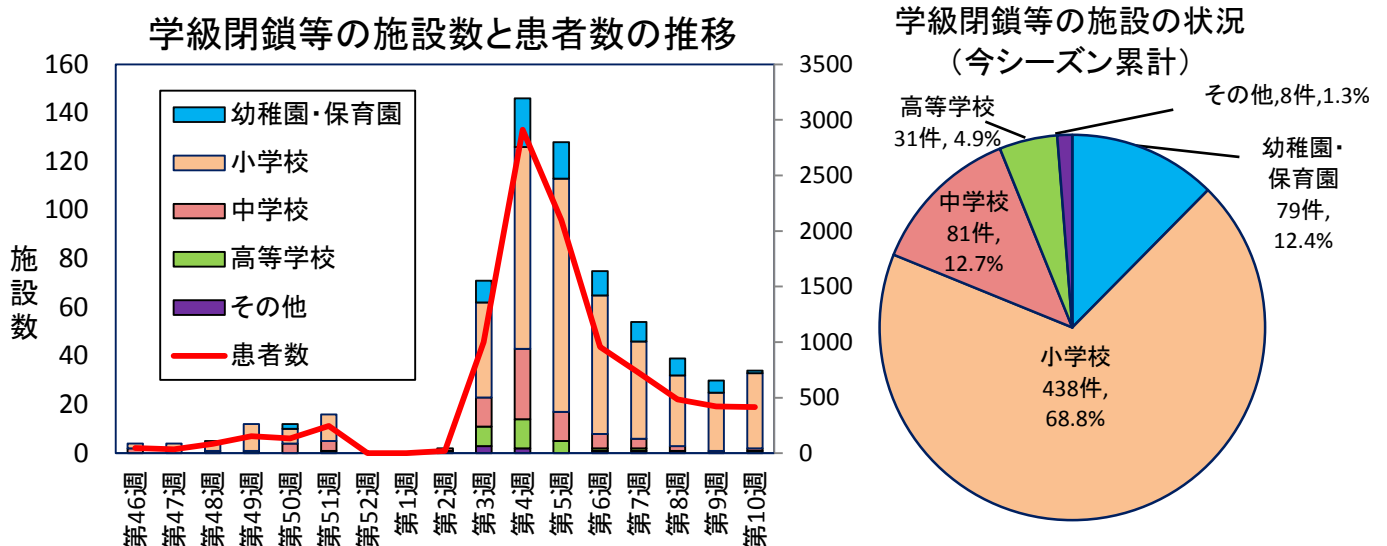
全国の流行状況

○ [国立感染症研究所](#)

3 年齢層別集計:第10週の患者年齢構成は、10歳未満が全体の59.4%、10歳以上15歳未満が19.2%となっており、15歳未満が占める割合は更に増加し、全体の8割近くとなっています。第10週では小学校の学級閉鎖等の報告が増加に転じており(本文4参照)、引き続き学校での感染予防策の徹底が重要です。



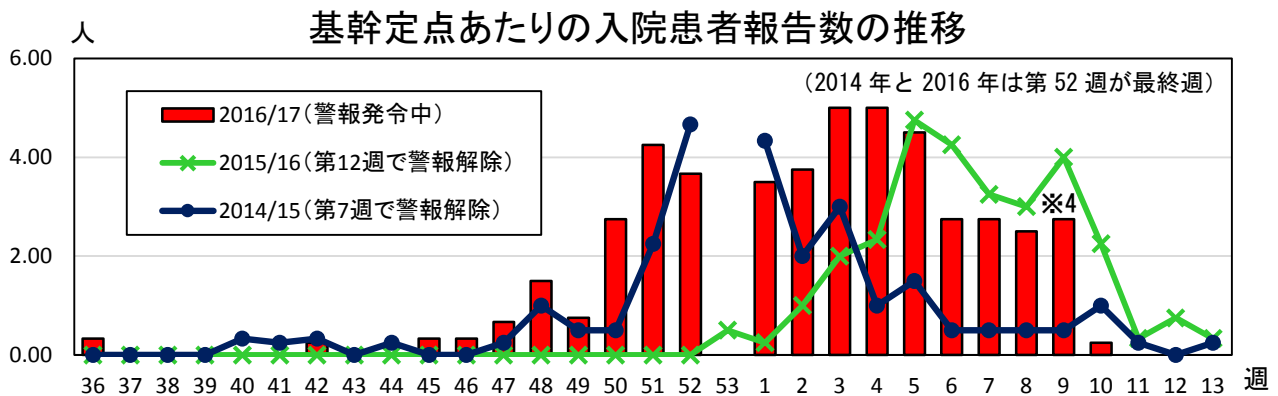
4 市内学級閉鎖等状況:第9週まで減少傾向にありましたが、第10週にて施設数が増加に転じました。内訳は、幼稚園・保育園1件、小学校31件、中学校1件、高等学校1件で、小学校が多くを占めています。第10週で報告された患者数(医療機関で診断された人数とインフルエンザ様の症状のある人数の合計)は415人で、第9週の423人から横ばいで推移しています。



5 入院サーベイランス:市内基幹定点医療機関^{※3}あたりのインフルエンザ入院患者報告数は第10週で0.25と減少し、累計で185人となりました。うち、15歳未満が61人(33.0%)、70歳以上が85人(45.9%)となっており、小児と高齢者が多くを占めています。迅速診断キットの結果が把握されている事例は、第8週まではすべてA型でしたが、第9週でB型の入院患者報告がありました。第10週はA型で70歳以上でした。

入院時の診療内容が把握されている事例で、ICU入室、人工呼吸器の使用、頭部CT検査、脳波検査が実施された重症肺炎や脳炎が疑われる入院患者は、特に小児と高齢者で多くの報告があります。

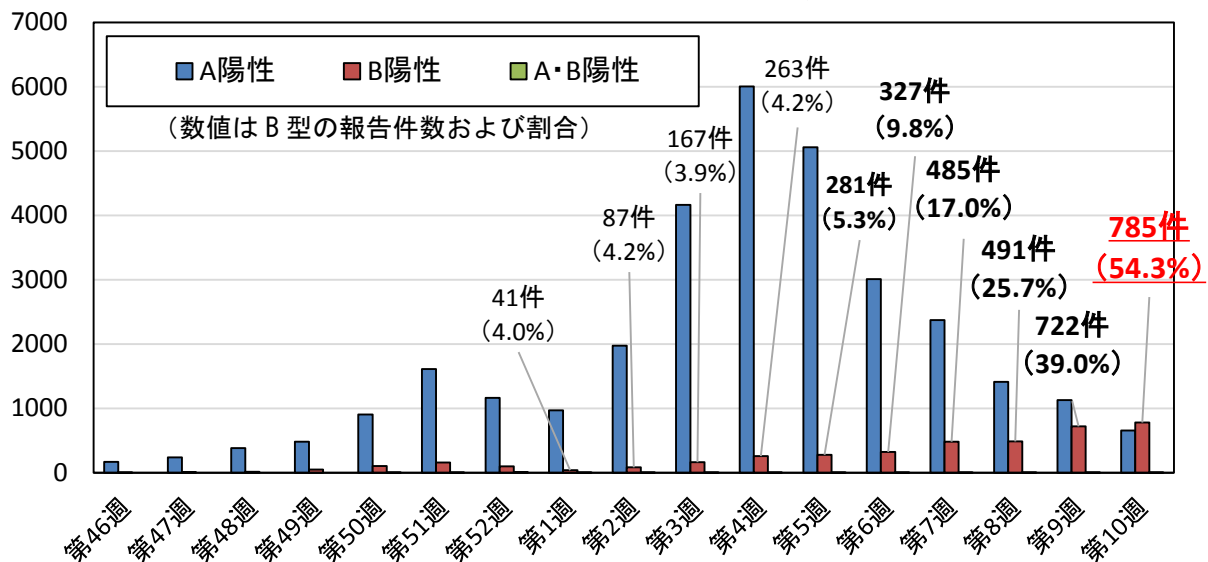
※3 基幹定点:患者を300人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には4つの基幹定点があります。



※4 追加報告があったため、流行情報15号から報告数が更新されています。

6 迅速診断キット結果:今シーズンの迅速診断キットの結果の累計は、A型32,050件(88.4%)、B型4,150件(11.4%)、A・B型ともに陽性52件(0.1%)と、A型が多く検出されています。第6週以降、B型の報告数および割合が増加しており、第10週の迅速診断キットの結果はA型658件(45.5%)、B型785件(54.3%)、A・B型ともに陽性3件(0.2%)と、B型の方が多くなっています。今後のB型の動向に注意が必要です。

横浜市の患者定点医療機関における
迅速診断キットによる型別の報告数

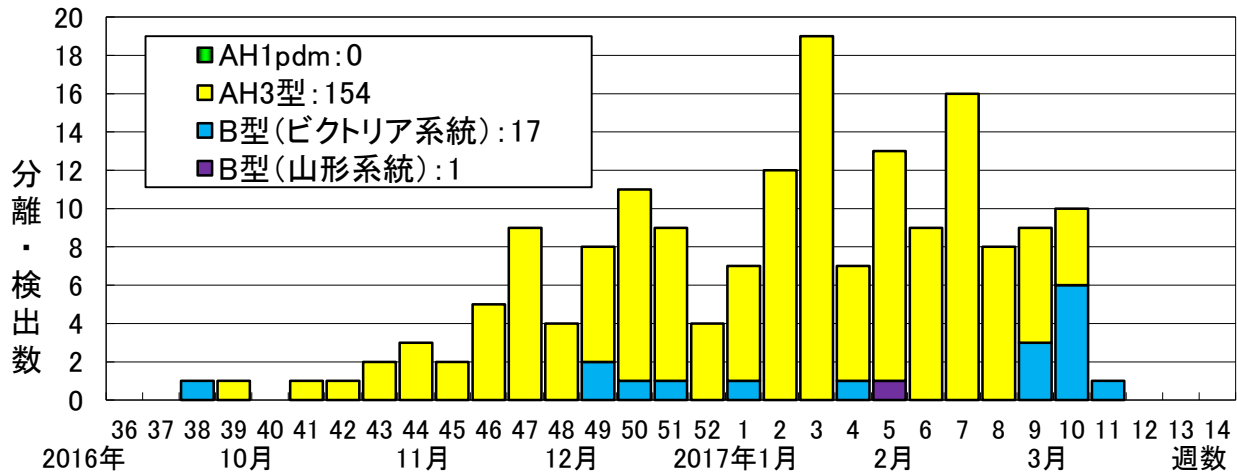


7 市内病原体検出状況:第 8 週までは市内では、病原体定点医療機関^{※5} から AH3 型が最も多く分離・検出され、全国の状況^{※6}と同様でした。一方、市内では第 9 週以降、B 型(ビクトリア系統)の検出が増加し、10 週以降は B 型が多くを占めています。

※5 病原体定点:採取した検体を衛生研究所に送付する医療機関で、市内に 17 か所あります。うち、インフルエンザについては 12 か所にて採取されています。

※6 [インフルエンザウイルス分離・検出速報\(国立感染症研究所\)](#)

病原体定点からのインフルエンザ分離・検出状況(2017 年 3 月 15 日現在)



【参考】

市内で分離された AH3 株(細胞培養した 191 株、3 月 15 日現在)のワクチン株との抗原性解析(HI 試験)は、ウサギの血清を使っているため参考値ですが、すべて 8 倍以上でした。ワクチン類似とされているのは 4 倍以内であり、現在までに市内で分離された AH3 株については、ワクチン株と類似しているとは言えず、国立感染症研究所の結果と矛盾しない結果^{※7※8}と考えられます。

一方、市内で分離された B 型株(細胞培養した 18 株、3 月 8 日現在)については、すべて 4 倍以内でした。

※7 [インフルエンザウイルス流行株抗原性解析と遺伝子系統樹 2017 年 2 月 24 日\(国立感染症研究所\)](#)

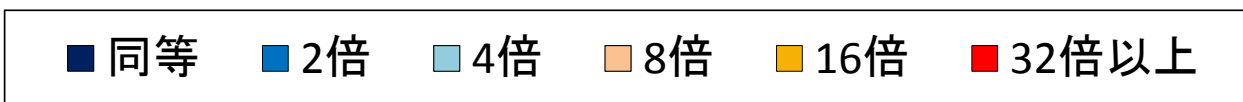
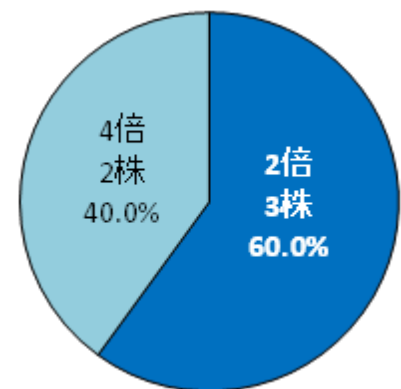
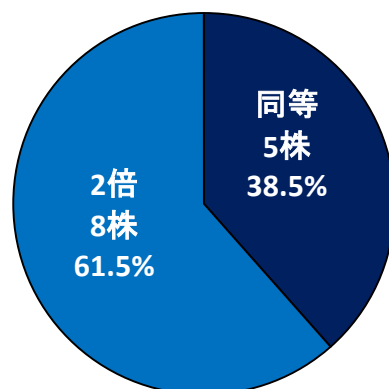
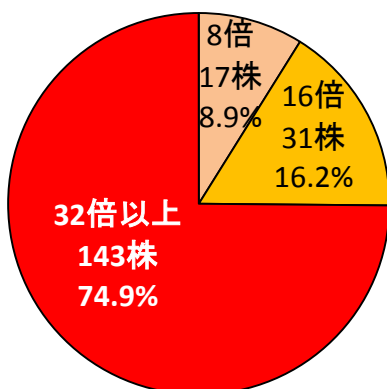
※8 [A\(H3N2\)亜型野外流行株の抗原性解析結果\(国立感染症研究所\)](#)

(参考値)市内で分離された株の抗原性解析

AH3 抗原性解析(191 株)

Bビクトリア系統抗原性解析(13 株)

B山形系統抗原性解析(5 株)



【お問い合わせ先】横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9237

横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2463